平)前遺跡

— 古墳時代の祭祀遺跡 —

島根県教育庁埋蔵文化財調査センター



はじめに一平が遺跡周辺の遺跡一

平ノ前遺跡 (大田市静間町) は、静間川の河口部から約500m南、標高4~5mの水田部に位置しています。西側には中世の城館である静間城跡の位置する丘陵があり、南から東にかけて静間川が流れています。静間川には、三瓶川、銀山川、笹川などいくつかの支流があり、平ノ前遺跡から500m上流部で合流して一本の川筋となり、日本海へ流れ出ています。平ノ前遺跡では、弥生時代から江戸時代にかけての遺構・遺物が出土しています。

周辺には、鳥井南遺跡、御堂谷遺跡、尾ノ上遺跡、市井深田遺跡など弥生時代から古墳時代にかけての遺跡が調査されています。



尾ノ上遺跡では、弥生時代の大溝が確認されました。

鳥井南遺跡、御堂谷遺跡では、弥生時代から古墳時代集落が確認され、鳥井南遺跡では古墳時代中期に集団的な祭祀が行われていました。

行恒古墳は直径が推定25mとなる円墳で、長さ10mの横穴式石室を備えています。

戦の遺跡では、平安時代の輸入陶磁器や 墨書土器 (文字が書かれた土器) が出土しま した。



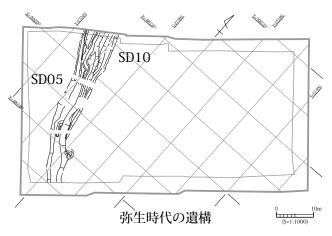
平ノ前遺跡周辺の遺跡

平ノ前遺跡の調査

弥生時代の水路

調査区の西側 (丘陵裾) に位置し、南東から北西方向に緩く蛇行して流れていました。弥生時代前期末から中期初め (およそ2200年前) の水路 (SD10) と弥生時代中期末から後期前半 (およそ2000年前) にかけての水路 (SD05) が ほぼ重なるように確認されました。水路の規模は幅4~5.5m、深さは80~90㎝でした。SD05内からは、多くの矢板や 杭が確認され、 塩をつくり水をため、岸に沿ってつくられた細い溝に水を流す構造が確認されました。 当時の静間川から取水して、水田耕作に利用する水を配水する灌漑用水路だったと考えられます。

水路からは、弥生時代の土器、木製品や石製品などが出土しました。







水路跡から出土した土器

SD05から出土した弥生土器です。前列左側は弥生時代中期の土器 (壺の口縁部)、その他は、弥生時代後期初め頃の土器 (甕及び壺)です。



水路跡(SD05·10)

写真上が南で、現在の静間川が西から東へ流れています。SD05は南側を取水口として、北へ向かって流れていたと考えられます。

水路内の配水施設

上の写真の中央部を拡大した写真です。幅12cm、厚さ2cm、長さ3mの板材が設置され調査時は失われていましたが、20~30cm左側にも同様な板材が設置され、細い溝が構築されていたと考えられます。本来はこの板材の前後にも、直線状に20m以上の細い溝があったと考えられ、SD05からの分水施設であったと推測されます。

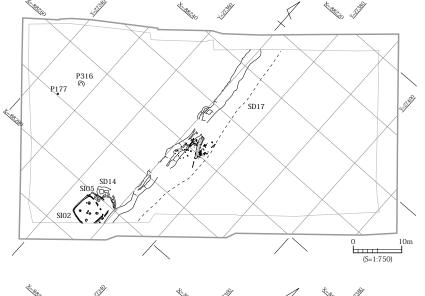


水路から出土した木製品

SD05から出土した木製の絹です。その他、笛下駄や板 状の木製品が出土しました。

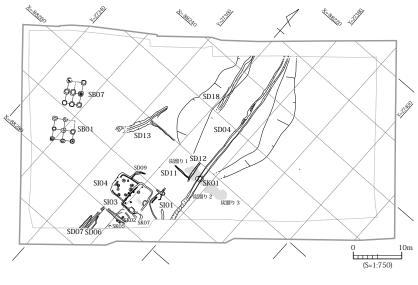
古墳時代の遺構

調査区の南側を中心に、古墳時代の建物や水路が集中して確認されました。建物や水路が使われなくなった後、自然に埋まったり、もしくは造成したりしながら、同じ場所で数百年にわたって土地の利用があったことも分かりました。



古墳時代前期 (4世紀) ~ 後期 (6世紀後半)

前期には調査区の南側に竪穴建物 (SI02、05) が建てられていました。5 世紀終わり頃もしくは6世紀初め頃に南北方向の水路 (SD17) がつくられました。水路からは多くの遺物が出土しており、水辺での祭祀が行われていました。



2. 古墳時代後期(6世紀末)~ 終末期(7世紀前半)

6世紀終わり頃にはSD17は埋まり、調査区南側には竪穴建物(SI01、03、04)や、南北方向の新たな水路(SD04)が構築されました。また、西側には東西2間、南北2間の倉庫と考えられる掘立柱建物(SB01、07)が建てられました。

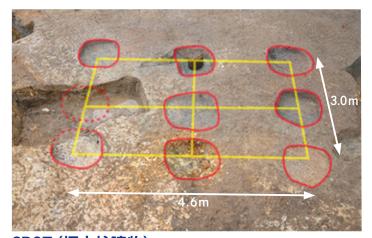
3. 古墳時代終末期以降 (7世紀後半以降)

7世紀後半以降には、調査区南側は盛土により造成されて掘立柱建物(SB02~05)が建てられていました。中でもSB04は床面積が約85㎡となる大形建物であり、現在の静間川下流域に勢力をもっていた有力者の居館などと推測されます。



SI02 (竪穴建物)

東西4.9m、南北4.6mの規模の建物跡で、床面には 直径40~60cmのピット(柱穴)が確認されました。古 墳時代前期の土器などが出土しました。



SB07 (掘立柱建物)

東西2間 (3.0m)、南北2間 (4.6m)の規模で、中央にも柱が設置されている総柱建物であり、高床の倉庫であったと推測されます。写真の後列中央の柱穴には直径40cmの柱の根元部分が残っていました。



SD04 (水路)

南北方向の水路で、幅90cm、深さ30cmの規模でした。SD17が埋まった後に、同じ方向につくられました。 須恵器、土師器、木製品が出土しました。



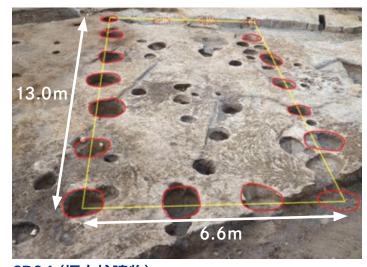
SD17 (水路)

南北方向の水路で、幅4m以上、深さ1.6m以上だったと推測されます。須恵器、土師器、玉製品など、さまざまな遺物が出土しました。



SI03.04 (堅穴建物)

東西4.3m、南北4.0mの規模で、床面中央部に火による熱を受けた痕跡が確認されました。SI04はSI03と重なる様に確認されました。SI04→SI03の順番に立て替えられたと推測されます。



SB04 (掘立柱建物)

東西3間 (6.6m)、南北6間 (13.0m)の大形建物です。柱穴は、直径約1mの正円形で、柱材の痕跡は直径が20~40cmだったと考えられます。

水辺の祭祀 -水路から出土した遺物-

調査区の中央付近に5世紀終わり頃、南北方向に直線的に延びる水路(SD17)がつくられました。幅4m以上、深さ 1.6m以上の規模だったと推測されます。6世紀前半にはいったん埋まってしまいますが、同じ位置に幅5m、深さ1.2m の規模で掘り直され、6世紀後半頃まで使われていたと考えられます。この水路からは様々な遺物が出土しました。





祭祀に用いられた土器

SD17からは、多くの須恵器·土師器が出土しました。 窯焼きでつくられる須恵器は、地域により形状などに 特徴があります。SD17では出雲地域や石見西部地域の 特徴を持っている須恵器が一緒に出土しています。また コップ形須恵器は石見地域の遺跡で数例出土例があり ますが、通常は1遺跡から1点の出土量です。しかし平ノ 前遺跡ではSD17 を中心に7点も出土しています。また 土師器の移動式竈や甑も様々な形状のものが、量的に も多く出土しています。これら出土遺物の多くは、水辺 での祭祀に用いられたと考えられます。

黒**色磨研須恵器模倣土**器

黒色磨研須恵器模倣土器とは、形は須恵器の坏を模 倣して、土器表面を黒色に仕上げた土器です。古墳時代 中期から後期の一時期に、関東地方及び九州地方で出 土します。須恵器や土師器の坏などと違い、島根県内で はあまり多く出土しない遺物です。SD17ではこの土器 が多く出土しています。これは、当時の九州有明海北部 沿岸地域との交流によってもたらされたと考えられ、そ の背景が興味深いといえます。



SD17遺物出土状況



日本海 出雲 平/前遺跡 石見西部 沿岸地域

こんどうせいほようつきうつろだま 金銅製歩揺付空玉

SD17からは、金銅製(銅の地金に金で鍍金した製品)の、歩揺(木の葉状の装飾品)付空玉(中空の球状をした装飾品)が1点出土しています。これは非常に珍しい資料であり、島根県内では、このほかに鷺ノ湯でよういんをとよこをなぼ病院跡横穴墓(安来市)出土例しか知られていません。

金属製歩揺付空玉は当時の新羅を中心とする朝鮮半島南東部で多く確認されており、この地域の技術で作られもたらされたものと推測されます。新羅の王墓では複数の金製歩揺付空玉と翡翠製勾玉などが糸(金糸など)でつながれ首飾りなどの装飾品として副葬されていました。

SD17で出土した金銅製歩揺付空玉は当時の交流を示す資料であり、これを入手できた人物は平ノ前遺跡 周辺部におる当時の有力者だったと推測されます。

玉製品

かっせき まがたま ろっかく まるだま 滑石製勾玉や、土製、鹿角製丸玉、石製臼玉が出土 しています。

たまさくみせいひん **玉作未製品**

SD17からは碧玉製の勾玉未製品などが出土しており遺跡内からも碧玉製管玉未製品が数点出土しています。 SD17の初期段階もしくはそのSD17が掘削される前段階に、付近で玉作りをしていたと考えられます。碧玉は花仙山(松江市玉湯町)産であり、出雲から工人がこの地へ来て、この地で製作していたと推測されます。

祭祀について

SD17で執り行われた祭祀は、下記の祭祀であったことが推測されます。

- ①SD17は灌漑用水路であり、農耕作業に伴う祭祀
- ② (遺跡近辺に港湾機能が推測されることから)水上 交通などにおける安全祈願の祭祀
- ③災害や事故に伴う安全祈願・鎮魂の祭祀

~他地域との交流~

SD17からは、金銅製歩揺付空玉や、須恵器模倣黒色磨研土器といった、遠隔地との交流を示す遺物が出土していたことが分かりました。

この地で行われた玉作は、出雲から工人を招いて実施されており、特別な背景が想像されます。また出土した須恵器や土師器も、多種多様であり、SD17で行われた祭祀は多くの人が行き交う場で行われた祭祀であったことが推測されます。

これらのことから、執り行われた祭祀は一つの集落レベルでの祭祀ではなく、律令期における安濃郡 (大田市東部から中央部にかけての地域) における規模の大きな祭祀であったと考えられます。

年表			
	中国	朝鮮半島	日本列島
300	280 魏を嗣いだ晋、呉を滅ぼし、全土の統一。	205 このころ遼東の公孫氏が帯方郡を設置。	239 倭の女王卑弥呼、魏に遣使して、 古 親魏倭王を授かる。
		246 楽浪・帯方郡に対して韓族が乱を起こす。魏は辰王を討ち、郡を回復。313 高句麗、楽浪郡を滅ぼす。	時 代 前 期 369 百済より七支刀が送られる。
400	MI I JUNE CALLO	391 広開土王陵碑・辛卯年条。 この年以来倭がたびたび海を渡り、	
	420 劉裕、東晋から禅譲され、宋を建国。	高句麗と争う。 475 高句麗、百済の漢城城を落とし、蓋鹵王 を殺害する。百済は熊津へ遷都。	421 倭王讃、宋に遣使。「倭の五王」の遣使のはじまり。 中 438 倭王珍、宋に遣使。「安東将軍倭国王」に封ぜられる。 478 倭王武、宋に遣使。「使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事安東大将軍倭国王」に封ぜられる。
500			大行車後国エJに封せられる。 527 築紫君磐井の乱。 後 期 587 蘇我氏、物部守屋を討ち、物部氏を滅ぼす。 592 蘇我氏、崇峻天皇を殺害する。
600	618 李淵、隋から禅譲を受け唐を建国。	660 7月唐・新羅連合軍により百済滅亡。 663 8月白村江の戦い。倭・百済連合軍、 唐・新羅に敗れる。 668 高句麗、唐・新羅連合軍に滅ぼされる。 676 唐、熊津都督府、安東都護府を遼東に 移す。新羅、朝鮮半島を統一する。	600 倭、隋にはじめて使いを送る。 645 乙巳の変。中大兄皇子、中臣鎌足らが 蘇我入鹿を討ち、蘇我氏本宗家を滅ぼす。 末 667 近江大津へ遷都。 期 672 壬申の乱。

まとめ

弥生時代の灌漑用水路 (SD05、SD10) では、河川から取り込んだ水を配水する高度な技術がみられ、この水路を構築、維持・管理した集団の集落が近辺にあったと推測されます。

古墳時代の祭祀が行われた水路 (SD17) からは、5世紀末から6世紀にかけての遺物が出土しています。その内容から祭祀の主宰者たる人物は、律令期の安濃郡域に影響力のある豪族 (有力者) であったことが推測されます。

この地で郡レベルの祭祀が行われた理由としては、平ノ前遺跡に日本海を介した東西交易の中継点としての機能や、静間川上流域への開発拠点としての機能があったことが推測されます。6世紀は、ヤマト王権による地方支配が進められた時代であり、平ノ前遺跡におけるこのような状況もヤマト王権の地方への圧力に連動していたと考えられます。

SD17での祭祀が終了した後も豪族居館と考えられる大形掘立柱建物 (SB04) の建設など重要な遺構・遺物が確認されており、平ノ前遺跡は古墳時代後半期をとおして安濃郡域における重要な遺跡であったと考えられます。

編集・発行 令和3年3月 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

T690-0131 松江市打出町33番地 TEL0852-36-8608 E-mail maibun@pref.shimane.lg.jp

URL https://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/